

# 学校放送番組「体験!メディアのABC」を効果的に活用した メディア・リテラシーカリキュラムの開発

高橋伸明\*1

堀田龍也\*2

メディア・リテラシー教育を学校独自でカリキュラム化して取り組む際、子どもたちに様々なメディアの特性を科学的に理解させる教材を開発することが、大きな課題の一つとなる。学校放送番組「体験!メディアのABC」をこうしたカリキュラムに組み込めば、「情報の科学的な理解」を促す教材としてより効果を発揮するのではないかと考え、実践を試みた。その結果、ワークシートの工夫、体験活動の工夫などにより、情報をクリティカルに受け止める力の高まりが見られた。

<キーワード>メディア・リテラシー,ワークシート,学校放送,情報の科学的な理解,クリティカル

## 1 メディア・リテラシー教育普及への問題

日本の小学校におけるメディア・リテラシー教育実践は、学校独自の特徴的なカリキュラムを生みつつ次第に普及する傾向が見られる。一方、実践を希望しながらも多くの小学校が諸問題を解決できず断念しているという調査結果も明らかになっている(駒谷,2002)。

こうした問題の一つに、教材不足が挙げられている。情報の内容や構成を分析的にとらえる視点を身につけることによってメディア・リテラシーは高まっていくが、そのためにはメディアが伝える様々な情報の特性を科学的に理解することが必要である。しかしこれらは極めて専門性の強い学習内容であり、教育関係者独自の手で適切な教材が作成されることは、困難な場合が多い。これまで専門家が積極的に教材開発へ携わるケースが少なかったこともあり、教材不足は普及の障害となっていたと考えられる。

表1 全20回の番組の中で設定されている「主な学習目標」と「関連する学習目標」との項目別累計数(NHK学校放送オンラインWebページより引用)

学習目標の項目	主となる 目 標	関連する 目 標
発信者の意図を読みとる	5	5
映像の原理を知る	6	6
言語と映像の相互作用を知る	3	3
テレビ番組で使われている手法を知る	6	4
さまざまな表現方法を知る	0	10
メディアと商業の関係を知る	0	3

## 2 「体験!メディアのABC」の学習目標

そんな中NHK学校放送では、「体験!メディアのABC」という小学校高学年向けメディア・リテラシー教育番組の放映が始まった(2001.4)。番組の基本理念には「情報の科学的な理解を助ける教材」と掲げられている。設定されている学習目標を項目別に整理し、その目標が20回の番組中何回の番組で取り上げられているかということをもとめると、メディアの特性を理解する上で必要な基礎的知識を様々な角度から学べるように編成されていることが分かる(表1)。番組は、1に記した問題を解消する効果的な手だてとなり得る「良質な教材」と考えられる。

ただし、メディア・リテラシー教育を進める上では必要だが、NHK学校放送の中では取り扱いにくい学習内容もある。

(1)「メディアと商業の関係を知る」という目標に該当する学習内容(表1)

(2)様々な情報の特性を、身近なマスメディア情報の中で具体的に取り上げること

学校独自のメディア・リテラシー教育カリキュラムの中では、(1)(2)のような内容を補完しながら、番組のよさを効果的に引き出す活用方法を探っていく必要がある。

## 3 研究の目的

1,2の現状をふまえ、メディア・リテラシーカリキュラムの中に学校放送番組「体験!メディアのABC」を取り入れる場合、学習活動をどのように工夫すれば効果的かということをも、実践を通して明らかにしていく。

## 4 番組を活用した学校独自のメディア・リテラシーカリキュラムの工夫

番組を有効活用し、さらに番組では取り扱われていない必要な内容を学習に組み込むために、以下のことに取り組んだ。

(1)ワークシートの工夫

\*1 岡山県笠岡市立中央小学校 nob-taka@mx1.tiki.ne.jp

\*2 静岡大学情報学部 horita@horitan.net

表2 情報の科学的な理解を促す単元のねらいと番組活用の工夫

学習のねらい	「 」内は活用した番組名	ワークシートの工夫	体験活動
1)身の回りにある様々な「メディア」に関心をもつ。			
2)「組写真」を使ってお話を作り、その特性を知る。			
3)写真の「アップとルーズ」の特性を知る。			
4)「写真と文章」を使った資料を作り、これらを組み合わせた情報の特性を知る。			
5)「キャッチコピー」を作り、文字情報の特性を知る。			
6)映像の撮影者・制作者の意図によって情報は大きく変わるとことを知る。			
7)「音響効果」によって伝わる情報の印象が大きく変わることを知る。			
8)CM分析を行い、CMは視聴者に商品を印象づけるために、様々な映像技法を使って制作されていることを知る。「コマーシャル」			
9)バラエティ番組について意見交換を行い、マスメディアが伝える情報の中には、受け取り方によっては問題がある内容を含む場合もあることを知る。			
10)マスメディアが伝える情報を観察しながら今まで学習したメディアの特性を見つける。 (家庭学習)			

は4(1)に対応

は本校独自に開発した活動・教材

は番組で放映された体験活動の追試

番組の視聴を通して「情報の科学的な理解」が促せるように、必要に応じて以下のような作業内容を盛り込んだワークシートを作成した。( は表2に対応)

メディアの特性を理解するために必要なキーワードを記入する。

学習を通して新たに知ったことや思ったこと等を自由記述する。

学習したメディアの特性が、今までの経験や身近なメディア情報の中に見つけることができれば、その内容を具体的に記述する。

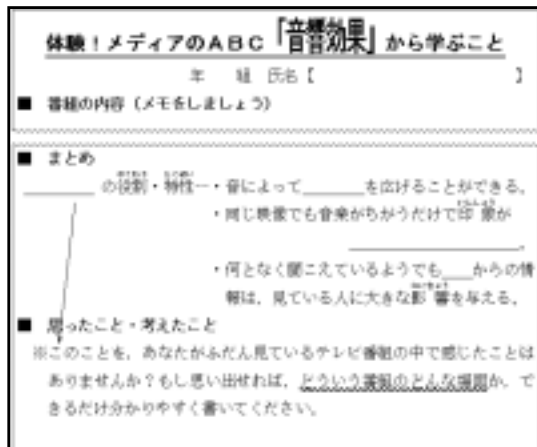


写真1 「音響効果」のワークシート(一部)

(2)体験活動の工夫・本校独自の教材開発  
番組中の「体験コーナー」の追試に加えて、4)「写真と文章」5)「キャッチコピー」を活用した学習には、学校独自に考えた作品作りの活動を取り入れ、メディアの特性に対する理解を効果的に深めることをねらった。

また、2(1)(2)で示したことを中心

に、番組で取り扱われていない学習内容を本校独自の教材として開発した。制作者の意図を分析的に読み取るための学習である。

#### 5 実践の様子

##### (1)ワークシートの工夫

キーワードの記入欄

1)「メディア」3)「アップとルーズ」4)「写真と文章」5)「キャッチコピー」7)「音響効果」に取り入れた。

番組視聴中あるいは視聴後の話し合いの中で、全ての児童がキーワードを記入することができた。このワークシートは、番組視聴により身に付けた新しい知識を整理する役割に加え、体験活動をする際のマニュアルとしての役割も果たした。

自由記述の欄

家庭学習分を除く全てのワークシートに取り入れ、授業の終末に記述させた。メディアが伝える情報の特性を学習して分かったこと、思ったこと等を書くことにより、一人一人の児童が情報の科学的な理解にかかわる振り返りを行うことができた。

##### 文例1 自由記述欄の文章より

###### 1)「メディア」の学習

「メディア」は人と人とのつながりを作る大切なものだと思った。同じような情報を伝えていても、メディアによって一つづつ性質がちがうということも分かった。わたしもいろいろなメディアを使って情報をこうかん？してみたい。(A児)

###### 8)「コマーシャル」の学習

たった15秒や30秒のCMを作るのです

ごく工夫してある。見ておもしろく「これを買いたいなあ。」と思わせるなんて、すごいと思った。いつも家ではふうに見ているけど、やっぱり目的があって作るんだなあとわかった。(B児)

身近なメディアから情報の特性を見つけ書き出す欄

3)「アップとルーズ」5)「キャッチコピー」7)「音響効果」のワークシートで設問した。例えば以下のようなものだった。

文例2 ワークシートの設問例(一部)

5)あなたがふだん見ている広告やテレビCMの中で、キャッチコピーを見つけたことはないですか?

ところが、日頃からこのような観点でメディアに接していないこと等の理由から、半数以上の児童が回答できなかった。

そこで、1)~9)全ての学習を終えた後、家庭で実際にメディアを観察しながら記入するワークシートを用意した。また、要領を得ない児童のために、写真2のような記入例を示したシートも配布した。その結果、ほとんどの児童が身近なメディアから情報の特性を見つけることができた。(児童が記入した文章は文例3を参照)

記入例 マスメディア観察日誌	
観察した日: 年 月 日 ( )	年 級 名前
<p>観る(目につく)ところ</p> <p>動画番組の宣伝で「おもしろい番組です。ぜひ見てください」と書いてある。おもしろい番組はたくさんあるから、おもしろい番組を選んで見たい。</p> <p>「おもしろい番組」って、何をいっているのかわからない。</p>	<p>例)「TOODO」(1997年番組)</p> <p>「おもしろい番組」って、何をいっているのかわからない。おもしろい番組はたくさんあるから、おもしろい番組を選んで見たい。</p>
<p>動画番組の宣伝をみるために「おもしろい番組」って、何をいっているのかわからない。</p>	<p>例)「TOODO」(ニュース番組)</p> <p>「おもしろい番組」って、何をいっているのかわからない。おもしろい番組はたくさんあるから、おもしろい番組を選んで見たい。</p>
<p>ぱっと見でわかるように「おもしろい番組」って、何をいっているのかわからない。</p>	<p>例)「TOODO」(ニュース番組)</p> <p>「おもしろい番組」って、何をいっているのかわからない。おもしろい番組はたくさんあるから、おもしろい番組を選んで見たい。</p>
<p>短く、簡潔で、目撃が強い</p> <p>キャッチコピー</p>	<p>例)「TOODO」(ニュース番組)</p> <p>「おもしろい番組」って、何をいっているのかわからない。おもしろい番組はたくさんあるから、おもしろい番組を選んで見たい。</p>
<p>動画番組の宣伝をみるために「おもしろい番組」って、何をいっているのかわからない。</p>	<p>例)「TOODO」(ニュース番組)</p> <p>「おもしろい番組」って、何をいっているのかわからない。おもしろい番組はたくさんあるから、おもしろい番組を選んで見たい。</p>
<p>動画番組によって、おもしろい番組はたくさんあるから、おもしろい番組を選んで見たい。</p>	<p>例)「TOODO」(ニュース番組)</p> <p>「おもしろい番組」って、何をいっているのかわからない。おもしろい番組はたくさんあるから、おもしろい番組を選んで見たい。</p>
<p>テレビCMは、短い時間の中に、おもしろい番組をたくさん紹介しているから、おもしろい番組を選んで見たい。</p>	<p>例)「TOODO」(ニュース番組)</p> <p>「おもしろい番組」って、何をいっているのかわからない。おもしろい番組はたくさんあるから、おもしろい番組を選んで見たい。</p>
<p>おもしろい番組は、おもしろい番組を選んで見たい。</p>	<p>例)「TOODO」(ニュース番組)</p> <p>「おもしろい番組」って、何をいっているのかわからない。おもしろい番組はたくさんあるから、おもしろい番組を選んで見たい。</p>

写真2 身近なメディアから情報の特性を見つけるためのワークシート(記入例付き)

(2) 体験活動の工夫・本校独自の教材開発 番組内の体験コーナーの追試



写真3 「組写真」体験コーナーの追試

1)「メディア」2)「組写真」の活動で実施したが、共に学習のねらいを達成することができた。1)では身の回りにあるいろいろなものを「メディア」とであると認識し、1年間の学習に関心をもつことができた。2)ではクラス全体で5種類の物語ができ、同じ写真でも物語の流れによっては全然違った意味を伝える写真になるという特性を理解した。

学校独自に取り入れた作品作り

例えば4)「写真と文章」では、「2枚の写真」「見出し」「記事」を組み合わせてコ



写真4 「写真と文章」で作った児童のプレゼンテーション画面(一部)

ンピュータでプレゼンテーションの画面を作る活動を取り入れた(写真4)。

全員がプレゼンテーションを行いながら相互評価をする中で、上のような作品については「見出しが記事の要点になっていない」「2枚の写真を並べて配置する意味がない」等の問題点を見つけ、さらに下のような作品のよさ・価値にも気づくことができた。

本校独自に開発した教材

番組そのものを補完する形で、全く独自の教材として開発したのは6)8)9)である。

6)によって児童は、メディアが伝える情報は制作者の意図によって大きく変わってくることに気づいた。8)ではCM分析を体験し、短い時間の映像の中に、様々な表現効果が凝縮されていることを読みとり、制作者の意図に気づいた。9)では同じバラエティ番組に対する個々の見方や考え方を意見交流する中で、受け取り方によっては問題がある情報もふくまれていることを確認し合い、一人一人の価値判断に基づいて情報を選んだり効果的に活用したりする必要性に気づいた。

こうした活動のしめくくり4(1)で示したワークシートの記述に取り組みさせた。そして文例3からも分かるように、身近なメディアが伝える情報の中から、学習した「情報の特性」をクリティカルにとらえた記述が多数見られた。諸活動により、メディア・リテラシーが高まりを見せたものと考えられる。

#### 文例3 活動10)のワークシート記述より

- ・TVチャンピオン、3人の選手が同じように工夫してランチを作っているのに、チャンピオンになった人だけコメントを多く映している。(C児)
- ・auのケイタイ、10秒に3カットの映像が組み合わされている。鏡の中からワニが出てくるという、現実にはあり得ない映像。言葉はなく商品を紹介する文字が最後になって出てくる。テンポのよい音楽が流れている。(D児)
- ・あるバラエティ番組、人が真剣に話しているのに、からかったり笑われたりしている。話している人にとってはいやな感じになると思う。(E児)

#### 6 結論

メディア・リテラシーカリキュラムの中に学校放送番組「体験!メディアのABC」を取り入れる場合、以下のような学習活動の工夫により効果が見られた。

##### (1) ワークシートの工夫

学習成果を高めるために用意したワークシ

ートの効果は、以下のようなものだった。

メディアの特性に関するキーワードを文中へ書き込むワークシートは、全ての児童が作業できた。知識を整理するのに有効だった。

自由記述の欄には、初めて知ったメディアの特性に対する驚きや今後のメディアとの接し方について、考えを記す児童が多かった。知識・理解を評価するために有効だった。

学習した情報の特性を身近なメディアから見つけ出すワークシートには、ほとんどの児童が記入できた。培ってきた「情報の科学的な理解」を、身近なメディアが伝える情報とのかかわりの中で認識できたので有効だった。

(2) 体験活動の工夫・本校独自の開発教材番組内容の追試は、活動の見通しがもちやすく情報の特性を理解するために有効だった。

独自に取り入れた作品作りでは、日常取り組んでいる活動を生かしたり地域素材を取り入れたりした。興味関心を高めながら見通しのもちやすい体験活動を行い、メディアの特性理解を促すことができたので有効だった。

本校で独自に開発した教材では、番組では取り扱われていない視点を補完する形で、情報の中に込められた制作者の意図をクリティカルにとらえる学習ができたので有効だった。

#### 7 成果と今後の展開・課題

本研究によって、「体験!メディアのABC」を有効活用すれば情報の科学的な理解を促すメディア・リテラシーカリキュラムが作れることは明らかになった。今後本校児童の学習は、様々な情報の特性を生かして自分たちの伝えたいことをビデオ作品にまとめ、学校内外へ情報発信する活動へと発展する。本実践で培った力が有効に機能し意図が明確に伝わる作品となるよう、制作を支援していきたい。

「体験!メディアのABC」は、高学年向けのメディア・リテラシー教育番組であるが、同Webページにも記されているように、メディア・リテラシーの基本は言語能力を養うこと、つまり国語科の学習の中にあると考えられる。総合的な学習の時間に実践している本校の取り組みを、今後は国語科・社会科等と関連づけながら、下学年から系統的に指導される「メディア・リテラシー教育カリキュラム」の開発へと結びつけていきたい。

##### 〔主な参考文献〕

駒谷真美(2002):「小学校におけるメディア・リテラシー教育の実践調査」、生涯学習社会におけるメディア・リテラシーに関する総合的研究、国立教育政策研究所  
NHK「体験!メディアのABC」Webページ、

<http://www.nhk.or.jp/abc/index.html>